

令和7年度第2回 田原本町総合教育会議 会議録

日時 令和7年8月19日(火) 午後3時00分～午後4時02分
場所 田原本町役場 201 会議室
出席者 田原本町長 高江啓史
教育委員 眞田和則 岡本春江 榊井歌世 山田育弘
教育長 大村泰弘
事務局 町長公室長 中辻勇
教育部長 森淳一
教育総務課 課長 森川理恵
課付課長 安倍仁
指導主事 山田佳余子
指導主事 中村雅也
課長補佐 奥谷知日朗
文化振興課 課長 久保知彦
課長補佐 澤田糸美
課長補佐 西嶋恵輔
欠席者 なし
傍聴者 1名
議題 (1) 田原本町教育大綱について

町長

令和7年度第2回目の総合教育会議を開催する。

○議題1 田原本町教育大綱について

町長

田原本町教育大綱案についてパブリックコメントを実施し住民の方から意見を頂戴した。意見を踏まえて特に大きな修正はなかった。事務局より説明する。

(事務局説明)

町長

1名の方からご意見をいただき、これまでの議論と重なる部分だと認識している。我々としては、あえて平易な言葉を使うことにこだわって大綱案を作成した。専門的な言葉もあった方がよいのではないかというご意見をいただくことは想定していたが、今回の案は、そうした指摘が来ることを織り込んだ上での判断だ。いただいたご意見は様々であるが、現状の大綱の記述の中で意図は読み取れると思っている。一方で、この大綱を先生や子どもたち、住民に説明していく際は、大綱内の言葉に含まれる意味合いをもう少し広く、補足的に説明していく必要があるだろう。ご意見は、その説明の重要性を示唆するものとして受け止めている。

岡本委員

要望される言葉をすべて入れてしまうと、全体像が不明確になり、かえって分からなくなる。今の案のままで問題ないと思うが、教育大綱周知後に研修を通じて内容をしっかり理解することが大事だと思う。教員が、大綱の内容をこどもたちにわかりやすく伝えられるよう、補足説明を含めた研修を実施してほしい。

町長

最初の案は横文字や漢字をふんだんに使ったものだったが、こどもが見て意味がわかるのかという議論が最も重要視された。いただいたご意見はおっしゃる通りだと感じる部分もあるが、この1年間議論してきた内容に含まれるものだと認識している。

眞田委員

1名からの詳細な意見は、教育への高い関心を示すものであり、敬意を表したい。教育大綱は、大きく言えば基本理念の幹のようなもので、学校で言えば憲法のようなものだ。細かいところまで規定してしまうと自由度がなくなるため、大きな括りに留めて、各学校が工夫を付け足せる余地を残しておく必要がある。窮屈なものになってもいけないため、この案を基本として良いと思う。大事なのは現場の先生たちがこれを理解し意欲を持って取り組んでくれるようにすることが必要だ。これから先生たちの理解と行動意欲を引き出す働きかけが重要になる。

町長

ご意見をいただいた結果、前回この場で取りまとめた案で進めさせていただく。速やかに内部の手続きを完了させ、先生やこどもたち、住民へ周知していく。これからは非常に大切に、大綱に基づき多くの方が思いを共有し具体的な実践につなげていく必要がある。8月議会において「未来の学び応援基金」を設置し寄附の受け皿を作った。学校現場からの提案として校長先生をはじめとする先生方に、大綱を踏まえた具体的な実践を提案してもらえよう準備をお願いしている。教育委員会からの施策として町として進めるべき特色ある教育を検討し、その組み合わせによって教育大綱をしっかりと実現する流れである。

眞田委員

未来の学び応援事業について具体的なイメージをお聞きしたい。

町長

他の自治体で、特定の取り組みや特定の学校に対して、全国から寄附を集めている事例を参考にした。学校は、人・モノといった多様な資源と共に、地域と一緒にあるべきだと思っている。地域の方々に学校に入ってもらい、今以上の形で学校を支えてもらうことができれば非常にありがたい。教育分野は特に人々の思いが共鳴しやすい部分で、実際に教育分野に寄附したいという声も聞く。素晴らしい教育を実現するには人やお金といった資源がないとできないため、そういった資源の受け皿として基金を作るべきだと考えた。教育大綱に基づいた魅力ある素晴らしい取り組みを学校現場から提案し、全国から寄附を募り、そこで集まった資源を魅力ある取り組みに使ってほしい。

柘井委員

以前、教育大綱に関連する出前授業に行った際、こどもたちの発想を聞かせていただい

た。未来の学び応援基金はこれらを実現するためのものか。

町長

提案する主体は教員であり、こどもたちのためにどうあるべきかを考えて提案されるはず。良い教育をするには様々な資源が必要だが、今までは十分に使えない部分があった。基金は、その不足部分を補う手段として活用してもらいたい。提案する教員は、こどもたちの声も踏まえているだろう。

岡本委員

特定の学校だけが希望して、他の学校でやりたいことが見つからなかった場合、その希望した学校だけが基金を活用して実施するということか。

町長

基金の活用は、先生方の意欲次第だと思っている。やる気がある学校が活用してほしいと考える。公立学校同士であっても、良い意味で意識し合い、切磋琢磨することは、むしろやるべきだと考えており、成功した取り組みは積極的に取り上げて、やる気のある学校を応援すべきだと考える。

眞田委員

学校間の競争と捉えられないか懸念する。今でさえ先生は疲弊しているのに、プレッシャーになると逆効果の可能性がある。理想は、競争ではなく学校現場からの教育を充実させたいという提案を後押しすることだ。先生やこどもたちからやりたいことが上がり、それに対して支援するイメージでやるのが良い。この制度が誤解されないように正しく伝えなければならない。

町長

基金設立の目的は2つあり、1つは複数年にわたってお金を分配するため。2つは行政のお金だけでなく、社会に訴えかけ寄附を得ながら教育を行い、これまでの予算以外のお金を使えるようにするため。どれだけ集まるかは未知数だが、新しい取り組みをやろうと努力している先生がいるなら、そこに応えるべきだ。やりたいことが無いという学校があるとしたら、経常的な予算はつくが、この基金からお金をつける必要はない。1つの学校で取り組みが先行し、教育内容に違いが出ることは想定されていることで、これを否定すると町立学校は1校で十分という議論になりかねない。

岡本委員

こどもたちが考えて実行するのであれば夢があると感じた。アピールやプレゼンテーションの方法をこどもたちが考える取り組みがあれば良いと感じた。

町長

教育大綱に基づいた取り組みを具現化するにあたっての資金調達のため、あくまで主体は先生方になる。具体的な構想は未知数だが、こどもたちのアイデアを掲載することも一つの工夫で、広く支持される可能性もある。

梶井委員

教育大綱と、未来の学び応援基金の周知は並行して進めるのか。

町長

教育大綱の策定と基金の設置については広報で同時に周知する。

榊井委員

今までも先生方はやりたいことや思いはあったが、資金面で諦めていたと考える。

町長

私は長年予算を見る立場にいるが、ハード面の要望はあっても、教育のソフト面での予算要望が自分のところまで来た記憶はほぼない。そういう提案は絶対にあるべきだし、行政としてできる支援をしなければならない。そのための基金の設置と教育大綱の策定である。

山田委員

PRは町がされるのか。会社が銀行に融資を依頼するのと似ていて、最終的な成果を見せるところが難しいと思われる。町がしっかりとPRするのであれば、学校も提案を出しやすくなるだろう。

町長

子細な制度設計は今後詰めていく予定だが、現場に丸投げはしない。町が一番にPRしていくつもりである。

教育長

現在のこどもたちは、真面目に学ぶ力はあっても、自分から表現したり考えを積極的に述べたりするのが苦手な子が多いと感じる。これは社会人全体にみられる指示待ちの姿勢にも共通し、教育現場にもある。アイデアを持っている先生が先頭に立って行動し、起爆剤になってほしい。様々な懸念はあるが、課題が出た際は、行政と現場が話し合いながら、1つずつ解決していく。委員の皆様方にも、この取り組みへの協力や、様々な難題を持ちかけることがあるがご協力していただきたい。

眞田委員

現場のやる気を引き起こすためには、中核となる意欲的な先生が必要だ。その先生が頑張ることで若い先生がついていき、学校も変わる。この基金が、先生方のやる気を引き起こす一助になるのであれば良い。今後、制度設計をうまく考えて進めてほしい。

町長

今後の進め方に関して様々な意見や指摘をいただいた。学校現場からの提案だけでなく、教育委員会の施策としてどう進めるかを、教育委員会で深く検討してほしい。

教育大綱については約1年間議論し一区切りとなるが、教育行政としてはここからがスタートだ。具現化には、引き続き現場の先生方の力添えをいただきたい。

議題は以上になる。本日はお時間いただきありがとうございました。

午後4時02分 終了